

令和2年度第1回 広島県総合教育会議 (6/8) 主な意見【概要】

1 大綱策定の基本的な考え方について

主な意見

- 現大綱は、非常によくまとめられており、次期大綱にも引き継ぐべきものは多い。
- 全世界に拡大している新型コロナウイルス感染症等（ウィズコロナ、アフターコロナ）への対応としても、人、物、環境の整備（デジタル技術の活用）を考えていく必要がある。
- （デジタル人材の育成という点では、）デジタル化とその次のデジタルトランスフォーメーションということも非常に重要で、大綱でもしっかりと取り上げるべき。
- 乳幼児期から初等中等教育、初等中等教育から大学・社会人の接続のところで、前の段階で培ったものを次のステップで最大限生かせるよう、校種間の接続プログラムを一層充実させていきたい。
- 子どもたち一人一人が「主体的な学び」を実感できる取組など、「学びの変革」の更なる加速に向けて、新たな取組にも果敢にチャレンジしてほしい。
- 大綱は前向きな表現で記載した方が良い。
- 大綱には数値目標はないので、現大綱を策定してからの5年間で出てきた成果や課題への対応等をどのように記載するか、工夫が必要。
- 次の5年間で、特に力を入れることが分かるような記載の工夫も必要ではないか。

2 項目の柱立てについて

主な意見

柱2 「主体的な学び」を促す教育活動の推進による、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成

- 高校段階では、自分の将来像の具体化や選択肢の増加・具体化することが望ましく、キャリア教育が中学校で途絶えるようなことがないようにしてほしい。
- 「学びの変革」の更なる加速に向けては、個別最適な学びに加えて、探究的な学びを充実させていく必要がある。そのためには、教員のファシリテーション力を高めていくことが重要。

柱3 一人一人の多様な個性・能力をさらに生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成

- 個別最適な学びの推進にあたっては、突き抜けた才能を伸ばすということと、通常の授業についていけない、落ちこぼれていくかもしれない子供たちを受け止めていくという意味でも期待したい。
- 個別最適な学びを推進するためには、全体の制度設計や（相応の）費用、人的資源の確保も必要となってくる。
- 個別最適な学びについては、教育レベルの保障を前提とする画一的な文部科学省からの流れの中で、一定のテンションをはらむものでもある。学校運営であるとか、先生の在り方（授業づくり）について考えていくことが必要。

主な意見

柱4 今後の社会経済環境の変化に対応できる高度な資質・能力を有する人材の育成

- 叡啓大学の教育理念は非常に良いと思うし、これまで以上に社会連携を進めるということで、今後の具体的な内容について期待したい。

柱5 教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への支援

- 学びのセーフティネットについて、今後、更に踏み込んでいく必要があるのではないか。広島県では誰にでもチャンスがある。公立学校に通えば、大きな未来が開けているということも大事なポイントではないか。
- 学びのセーフティネットの充実については、これまで様々な側面から取組を実施してきたが、(貧困の)世代間連鎖を断ち切るためには、一過性の支援ではなく、継続的な支援が不可欠。

柱6 教職員の力を最大限に発揮できる環境の整備

- 働き方改革については、学校の先生が本来の仕事に専念できるように、スクールソーシャルワーカー(S S W)などの専門家の知見や力を借りることが重要。
- 教員の働き方改革のためにも、地域との連携といったところを、大綱にも入れ込んでいくことを検討していただきたい。
- 先生のデジタルリテラシーの開発という点について、今回は書き込んだほうがいいのか。
- (教育の)デジタル化については、環境を整備しないと進まないが、併せて、教員の一人一人の能力開発が必要だが、教員や学校に任せるだけではいけない。

柱7 安全・安心な教育環境の構築

- 新型コロナウイルス感染症への対応として、在宅ワーク、リモート授業を一層進めることにより、どういう状況でも耐えられる教育体制を構築して欲しい。

柱8 生涯にわたって学び続けるための環境づくり

- リカレント教育について、「生涯にわたって学び続けるための環境づくり」のところに入っているが、産業振興等に大きく関係があると思うので、学校教育の領域に入っていたほうが(学びの)土台としては良いのではないか。
- 人生100年時代では、従来の生涯学習、社会的な教育とはフェーズが変わってくるようなところがあるので、それをきちっと位置づけるとしたら柱4になるのではないか。
- (リカレント教育については、) 産業界側のニーズを踏まえて、大綱にどのように反映していくのか、検討していく必要がある。
- 生涯にわたって学び続ける環境づくりの中でも、気軽にスポーツや文化芸術に親しむことのできる機会や環境を整えることは重要。
- 生涯学習というのは大人のための教育も含んでいて、いわゆる社会教育の分野だと思うので、学校教育等を支える環境(柱6, 7, 8)については、柱6と柱7は学校での教育とし、柱8は生涯学習の部分と社会教育の部分として一つ中項目を立てると良いのではないか。